

## 論文審査の要旨(甲)

|  |  |
|--|--|
| 申請者領域・分野 氏名  | 循環病態科学領域 循環病態内科学教育研究分野<br>氏名 對馬迪子              |
| 指導教授氏名   | 富田泰史   |
| 論文審査担当者  | 主 査 大熊洋揮<br>副 査 富山誠彦 副 査 佐藤 温                  |
| (論文題目)<br>D-dimer and C-reactive protein as potential biomarkers for diagnosis of Trousseau's syndrome in patients with cerebral embolism<br>(Trousseau 症候群に伴う脳梗塞の診断バイオマーカーとしての D-dimer と CRP の有用性)  |  |
| (論文審査の要旨)<br>Trousseau 症候群は悪性腫瘍により血液凝固亢進が生じ様々な血栓塞栓症を呈する病態である。潜在性の悪性腫瘍の場合にはその他の塞栓性脳梗塞との鑑別に苦慮することも少なくない。本研究では Trousseau 症候群の診断に有用な予測因子やバイオマーカーを検討した。<br>平成 28 年 4 月～平成 30 年 3 月の間に弘前脳卒中・リハビリテーションセンターに入院した発症 72 時間以内の塞栓性脳梗塞患者 496 名を対象とした。Trousseau 症候群 (Trousseau 群、19 名)、大動脈原性塞栓 (A to A 群、85 名)、心原性塞栓 (CES 群、310 名)、塞栓源不明塞栓 (ESUS 群、82 名) の 4 群間において患者背景、リスク因子、入院時の検査所見・画像所見等について統計学的検討を行った。さらに、Trousseau 症候群検出を目的とした多変量解析を施行し、D-dimer と CRP のカットオフ値を ROC 解析で算出した。<br>Trousseau 群では女性 (74%) が多く、頭部 MRI 拡散強調画像で多発性の梗塞パターンの割合が高く、入院時の D-dimer 値と CRP 値が最も高かった。多変量解析では、女性、多発性病変、D-dimer (高値)、CRP (高値)、BNP (低値)、血小板数 (低値) が Trousseau 群の独立した因子であった。ROC 解析では D-dimer のカットオフ値が 2.68 $\mu\text{g}/\text{mL}$ FEU (AUC 0.87、感度 89%、特異度 72%、 $P<0.0001$ )、CRP のカットオフ値は 0.29 $\text{mg}/\text{dL}$ (AUC 0.79、感度 89%、特異度 63%、 $P=0.04$ ) と算出された。<br>本研究は Trousseau 症候群と他の塞栓性脳梗塞の鑑別において、入院時の D-dimer や CRP の有用性およびスクリーニングに有用なカットオフ値を明確に示した点で、臨床上極めて有意義な知見を提示しており学位授与に値する。 |  |
| 公表雑誌等名   | Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases |